

令和4年度 地域学習に関する出前授業等の実施について

生涯学習課では、「郷土“板橋”を愛する心」を醸成し、社会情勢の変化に対応した生き抜く力を育むための学びの機会の提供に取り組んでいます。

「地域教材 生涯学習課指導事例」（令和3年3月作成「いたばしを語れる子に」リーフレット記載）は、生涯学習課としてこれまでに実施してきた、地域学習に関わる授業の事例を紹介しています。なお、掲載内容はあくまで一例であり、その都度、学習内容や授業時間などのご相談に応じます。但し、ご希望に添えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

1 実施の目的

子どもたちの「郷土“板橋”を愛する心」を醸成し、社会情勢の変化に対応した生き抜く力を育み、地域への興味と理解を深める。

2 実施と応募について

(1) 実施内容と応募時期の目安

実施項目	内 容	応募時期（目安）
ふるさと文化伝承事業	区内に残る郷土芸能（区指定無形民俗文化財）の普及と継承のため、郷土芸能が伝承されている地域の学校を中心に体験授業を行う。 【講師】郷土芸能の保存会 【対象】郷土芸能や民俗芸能について学習している学年	3 か月前 ※ 郷土芸能の保存会、郷土芸能伝承館と日程や施設利用の調整をするため、期間を要します。
出前授業	地域の歴史、文化、郷土芸能について説明。学校周辺の地域めぐりにも対応。 【講師】学芸員	2 か月前
埋蔵文化財教材使用授業	区内から出土した土器等を教材にして、遺跡や地形について説明。 【講師】学芸員	2 か月前
郷土資料館の社会科見学	資料館の展示解説、民具の貸出、昔の暮らし体験など。 【講師】学芸員	1 か月前

(2) 対応可能な実施日

担当部署	対応可能な実施日
生涯学習課文化財係	月曜日から金曜日の平日のみ対応可能
郷土資料館	・火曜日から金曜日 ・実施希望日が土曜日になる場合、可能な限り対応 ※月曜日休館（ただし月曜日が祝日の場合は翌日休館）

3 応募の際の注意事項

(1) ふるさと文化伝承事業

報償費に限りがあるため、実施できる学校数に上限があります。

なお、従来より実施している学校については別途、ご案内をいたします。

(2) 埋蔵文化財教材使用授業

実施日の前日に、校内で土器等の保管をお願いすることがあります。

(3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止について

密集・密接を避けるため、実施形態や会場に変更が生じる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

4 お問い合わせ先

お電話にて授業内容のご希望等を確認のうえ、内容を決定いたします。

担当部署	問合せ内容	電話
生涯学習課文化財係	・ふるさと文化伝承事業 ・実施形態として、出前授業や地域めぐり等をご希望の場合 ・埋蔵文化財教材使用授業	03-3579-2636
郷土資料館	・実施形態として、出前授業をご希望の場合 ・体験型や民具等の貸出をご希望の場合 ・資料館での社会科見学や昔の暮らし体験をご希望の場合	03-5998-0081

5 地域学習における学びの活用と発展について

生涯学習課では、第21回（令和4年度）櫻井徳太郎賞を実施しています。歴史、民俗、考古に関する小中学生の作文を募集しておりますので、社会科や地域学習で学んだことをまとめたり、さらに調べたりするなど、ぜひ櫻井徳太郎賞をご活用いただき、子どもたちが地域への興味や理解を深め、学びの発展に繋げていただければと思います。

※別紙チラシ参照



いたばしを 語れる子に



板橋区の児童・生徒が日本人はもちろん世界の人々に対して
「いたばし」を語れる子になってほしい。

「私はもっと本を読んだり、板橋のことなど身近なものについて考えたりして、もっと外国の方と話せるように勉強していこうと思いました。」

令和元年度マレーシア派遣中学生

「板橋で学び地域を愛し、ふるさと板橋を大切にする子どもになってほしい。たとえ、大人になり、ふるさとから離れても板橋を想い続ける人になってほしい。」

板橋区長（板橋区教育大綱より）

「【里】はポップ。ポップカルチャーが今の伝統になっていたり。そんな時の流れが目に見えてあらわれているのが【文化】です。ムカシの今がライブで伝わる。だから伝統文化はおもしろい。」

里神楽（さとかがら）ホゾン会

なぜ板橋を語れる子？

児童・生徒と地域の方々がつながり、持続可能なまちづくりに向け、世代をつないでいきます。

板橋や日本の伝統と文化について深く学び発信する力は、外国の方とのコミュニケーションを充実させ、豊かな国際感覚が身に付きます。

SDGsの達成

新学習指導要領のめざす姿

グローバル
人材の育成

読み解く
力の育成

「持続可能な社会の創り手」は、まさに新しい学習指導要領のめざす姿です。「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラムマネジメント」が実践でき「社会に開かれた教育課程」にもつながります。

知識や情報を体験したことを基に自分ができること、自分たちにできることを考え、『語る』ことは、『読み解く力』の育成につながります。



板橋区
教材マップ



15 松月院のヒイラギ



15 火技中興洋兵開祖
高島秋帆紀功碑



番号	名 称	概 要	教科
1	旧養育院長 渋沢栄一銅像	日本の福祉・医療の分野をリードしてきた旧養育院の初代院長、渋沢栄一の銅像。	総合 道徳
2	加賀公園	江戸時代の加賀藩下屋敷、戦前の板橋火薬製造所跡。	社会
3	板橋	板橋の地名のおこりとされる。	社会 総合
4	板橋区民まつり	板橋区4大イベントのひとつ。昭和47年（1972）から毎年10月に開催。	総合 道徳
5	下頭橋と六蔵祠	『いたばしの昔ばなし』所収「下頭橋の六蔵さん」ゆかりの場	道徳 総合
6	祭り囃子 神明囃子	締太鼓2人、大太鼓・笛・鉦が各1人の五人囃子。天祖神社の秋の例祭などで演じられる。	総合 道徳
7	安養院	鎌倉時代の創建とされる。銅鐘は江戸時代の鋳造。	社会
8	茂呂遺跡	縄文時代より古い文化の存在を確認した遺跡のひとつ。	社会
9	稻荷神社の イチョウ	大正時代頃まで雨乞いの祭りに使用されたといわれる。	総合 道徳
10	志村一里塚	中山道に設置された、日本橋から数えて3里目の2基一対で残る全国的にも希少な一里塚。	社会

番号	名 称	概 要	教科
11	志村熊野神社	旧志村の総鎮守。江戸時代から大正時代の絵馬がある。	社会
12	若木稻荷神社 「四季農耕図」 絵馬	一年間の農作業の様子が描かれた明治時代の絵馬。	総合
13	徳丸北野神社 田遊び (板橋の田遊び)	毎年2月11日に五穀豊穡・子孫繁栄を祈る予祝の祭り。	道徳
14	郷土芸能伝承館	区内に伝わる民俗芸能を伝承するための施設。またその道具を収蔵。	社会 総合
15	松月院 伝千葉一族の 墓地	戦国時代に赤塚を拠点とした武蔵千葉氏の墓地とされる。区内最古の墓碑。	社会
16	赤塚諏訪神社 田遊び (板橋の田遊び)	毎年2月13日夜に行われる予祝の祭り。	道徳
17	郷土資料館	板橋区の歴史や文化・自然に関する資料、情報の展示を行う。江戸時代の萱葺き民家を付設。	社会 総合
18	徳丸ヶ原	幕末に高島秋帆による西洋式砲術訓練が行われた場所。	社会
19	早瀬の渡し水 神宮碑	渡し場の水難事故防止のために江戸時代に建立。	道徳
20	いたばし 花火大会	昭和25年、板橋区と埼玉県戸田町との間の境界変更を記念して開催されたのが始まり。	総合 道徳



11 志村熊野神社所蔵絵馬



6 祭り囃子 (神田囃子) 神明囃子

令和2年度の実践事例等を紹介します

1 道徳科

「田遊びを基にした教材」

2 総合的な学習の時間

「板橋の食品ロスを考える」

3 社会科

「未来を変える目標SDGsについて」

+α（提案）カリキュラムマネジメント

「地域の未来を考える」

【育成の視点】

- ① **しる**：伝統や文化を理解し、歴史や自然に愛着をもつ。
- ② **かかわる**：人とのかかわりをとおして、地域の人の想いや郷土のよさに気付く。
- ③ **つながる**：伝統や文化の継承・発展・創造と社会の発展に貢献する意識や態度を高める。

1 道徳科実践事例

しる

つながる

過去から学ぶ

第7学年 郷土板橋に関する教材の開発 「ぼくの住む町 ～板橋に息づく伝承～」

授業概要（田遊びを基にした教材）

- ① 板橋区が誇れることについて考える。（板橋カルタの紹介）
- ② 教材を読み、郷土の発展について考える。
中心発問に対して
 - 自分の住む町に長く続く伝統があったことを知ったから。
 - 身近な人が伝統を継承していることを知ったから。
- ③ 本時の授業で考えたことや感想を発表する。

《教材・学習指導案の紹介》

「田うない」（教材に出てくる歌）の音源含む



ぜひ
ご活用ください！



板橋カルタ

【小学校道徳】

導入などで板橋区のことに触れることで、ねらいとする価値へせまることができます。学習への関心が高まったり、自分事として考えられたりすることができ、効果的です。

事例1（低学年） 分かりやすい身近な行事や伝統を織り混ぜて紹介する。例 花火大会・お祭り等の写真

事例2（中学年） 社会科の学習で行った板橋十景や板橋の行事、板橋カルタなどを紹介。
終末で、お祭りや地域行事を推進している方の話を聞く。または、実際の動画やインタビュー動画を活用する。

事例3（高学年） 導入で知っている区の行事や伝統などを伝え合う。区のHPを活用。
終末で、教師が自分の行事や伝統の参加体験談等と、区の行事や伝統をつなげて話す。

第7学年 「いろいろな立場で考えよう 板橋の食品ロス」 (全10時間) の学習過程

授業概要

食べ残し、売れ残りや期限が近い等の理由で、食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」。なぜ、「食品ロス」が問題になっているのでしょうか。「食品ロス」はどのように発生するのでしょうか。そして、わたしたちは、「食品ロス」を減らし、未来の板橋がよりよくあるために何ができるのでしょうか。

家庭・企業・行政・
国連・地域・個人商店等の
視点から、「食品ロス」の
課題を調べたよ。



しる

1 課題設定



世界にどのような課題があるのか、また、日本国内や身近な地域ではどのような課題を抱えているのか、「食品ロス」に迫ります。

板橋区では
様々な取組を
しているよ。



2 情報の収集



様々な立場の視点に立ち、必要な情報をインターネットや本、資料から情報を集めます。課題解決につながる必要な情報は何か、考えながら集めます。

3 整理・分析

かかわる



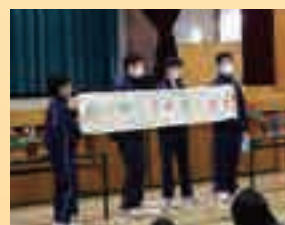
「食品ロス」の課題解決に向けて、「板橋区」「板橋区民」に向けて何を提案するか、集めた情報を基にグループで幾度も検討します。

板橋区で唯一
お花の生産者を営む
松澤智昭さんに伝えたよ。
花も食品と同じで
「ロス」の問題が
あるそうです。



かかわる

4 まとめ・表現



世界中には
飢餓で苦しむ人が8億人以上に
のぼるそうです。
「食品ロス」の課題解決は
世界的な問題です。



つながる

板橋区の「食品ロス」の現状や課題解決に向けた提案を、ゲストティーチャーに聞いていただきます。

食品ロスを減らすためには、私たち一人ひとりの意識を変えなければならないと思う。生産者や企業、行政だけが変わったとしても、私たち消費者が変わらなければ何も変わらない。想像以上に現実は大変だけれど、日本や未来のために、努力したいです。



第5学年 未来を変える目標 SDGsについて考えよう

授業概要（新設単元3時間計画）

- ①SDGsについて知る。
- ②身近な地域で行われているSDGsの取組について調べ、分かったことを話し合う。

例 成増地域（商店街）の取組例、板橋区の取組例（緑のカーテン、手作りマスクの推進）

- ③自分ができるSDGsアクションを考える。



《児童の感想》

「板橋区民として自分もSDGsに協力していきたい。」

《教材・学習指導案の紹介》



日本経済新聞社
産業地域研究所
「SDGs先進度調査」
(2021年)
板橋区が全国9位
(東京都で2位)の評価

+α カリキュラムマネジメント 提案事例

「地域の未来を考える」日をつくる （キャリア教育につなげる）

授業概要（提案）

将来板橋区を支える人材を育成するため、各学校で「地域の未来を考える」日を位置付け、地域の小学生又は中学生が板橋区への愛着を深め、誇りをもち、地域に貢献したいと思える場を設定する。

- ①社会科、道徳科の時間を活用して、「地域を知る」の授業を実践。

- ②社会科、総合的な学習の時間を活用して、「地域の人とふれあう」授業を実践。

- ③「地域の未来を考える」日の授業実践

「地域の未来を考える」日（例）

- 地域の業者を複数招待して、ブース形式で学年又は学校全員が個々に地域業者からの説明（テーマ「地域貢献」）を参観する。
- 地域の伝統芸能をイベントの始まりや休憩時間に披露。

※実行委員会を作り、児童・生徒が中心の活動をすすめる。

地域教材 生涯学習課指導事例



「大地のつくり」

《講師》資料館学芸員（連絡先B）
《内容》地域理科の授業で貝化石に触れたり、成増露頭の地質標本の画像を見たりして、地質の話をする。
《教科》理科
《場所》学校



「地域学習」（史跡散歩）

《講師》文化財係学芸員（連絡先A）
《内容》学校の周辺を歩き、身近に残る歴史と文化財について学ぶ。
《教科》社会（歴史）
《場所》学校周辺



ふるさと文化伝承事業 「田遊び」・「獅子舞」・ 「四ツ竹踊り」

《講師》徳丸北野神社田遊び・獅子舞・四ツ竹踊り各保存会（連絡先A）
《内容》徳丸地域に伝承されている郷土芸能を伝承館で体験する。
《教科》社会
《場所》郷土芸能伝承館（マップ⑬）



ふるさと文化伝承事業 「里神楽」・「祭り囃子」・「四ツ竹踊り」

《講師》各郷土芸能保存会（連絡先A）
《内容》地域に伝承されている郷土芸能を学校において体験する。
《教科》社会
《場所》学校体育館



「埋蔵文化財教材使用授業」

《講師》文化財係学芸員（連絡先A）
《内容》学芸員が小学校周辺の遺跡を概説する。板橋区内での発掘調査で出土した土器や石器、貝類などを手に取り観察する。
《教科》社会
《場所》学校



「板橋の歴史と文化の伝承」

《講師》文化財係学芸員（連絡先A）
《内容》学区の歴史や文化財、田遊びなどの郷土芸能の概要と保存への思いを伝える。
《教科》社会
《場所》学校



「かわる道具とくらし」 （社会科見学）

《講師》資料館学芸員（連絡先B）
《内容》古民家（旧田中家住宅）の見学、石臼や火吹き竹によるカマドの体験を実施。
《教科》社会（歴史）
《場所》郷土資料館（マップ⑰）



「地域の歴史と昔の道具」

《講師》資料館学芸員（連絡先B）
《内容》小学校周辺の歴史や文化財の話聞き、学校へ持参した昔の道具から、昔と今の道具の違いを学ぶ。
《教科》社会



郷土資料館ホームページ 「キッズページ」

《講師》なし（連絡先B）
《内容》社会科の授業「板橋区のうつり変わり」で活用できる資料を掲載。社会科見学用パンフレットのデータも公開。
《教科》3年生 社会



「たぬきの糸車」※資料貸出

《講師》なし（連絡先B）
《内容》糸車を貸出し、糸車の構造や使い方を学ぶきっかけとする。
《教科》1年生 国語



「火おこし」「染物体験」 （夏休み期間事業）

《講師》資料館学芸員（連絡先B）
《内容》「火おこし」火の着火方法を学び、舞ざり式で着火を体験する。「染物体験」布の染め方を体験する。
《場所》郷土資料館（マップ⑰）



「勾玉作り」 （夏休み期間事業）

《講師》なし（連絡先B）
《内容》勾玉作りに使う道具を貸出し実施する。作り方は紙を見ながらおこなう。
《場所》郷土資料館（マップ⑰）

連絡はこちらへ

■連絡先A（生涯学習課文化財係）
03-3579-2636

■連絡先B（板橋区郷土資料館）
03-5998-0081

※新型コロナウイルスの影響により、従来の体験型の授業として実施できず、内容が変更になる可能性があります。

令和○年の板橋区立小中学校において、 こんな郷土愛の育成に向けた 取組をめざしませんか

1 絵本作り

1年生から9年生まで、地域のことを題材にした絵本作りを作成

- 校内で絵本大賞を決め、板橋区内で絵本大会を開催する。
- 製本化した優秀作品を中央図書館に期間限定で掲示する。



2 iCSの知恵を生かした地域課題の設定・解決

iCSの委員の方々と熟議した地域課題を児童生徒と共有し、iCSの方々とともに授業を実践。課題の設定・解決を通じた探究的な学習の実施。

- 「地域の行事に参加する児童・生徒を増やそうプロジェクト」を立ち上げる。



3 タブレットを使用した地域巡り

1人一台タブレットをもちながら、板橋区内を散策

- タブレットで地域教材マップを見ながら、情報収集を行う。
- 専用アプリにおいて名所には様々な情報が書き込まれ、動画等が紹介される



4 いたばしを語る場の設定

学校又は地域ごとに、「いたばしを語る」と題して、板橋やそれぞれの地域のことを紹介する弁論大会（少年の主張）を開催

- 校内で最優秀賞を決定し、区内大会を開催する。



今後の方向性

教材マップ・指導事例の アップデート

- 本リーフレットで示している教材マップや指導事例を更新し、よりよいものを板橋区教育委員会から提供します。

令和3年度での カリキュラム作成

- 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に遅れているカリキュラムを作成し、区内小中学校に示します。

令和4年度以降の郷土愛の 育成に向けた取り組み

- 全体で展開できる動きを検討中で「絵本作り」「タブレットを使用した地域巡り」「いたばしを語る場の設定」「iCSの知恵を生かした地域課題の設定・解決」4点の提案を軸に、区内全体で展開できる動きを検討中です。今後、児童・生徒や先生方・iCSみなさんの意見を参考に考えます。

第21回 櫻井徳太郎賞 論文・作文募集のお知らせ

板橋区教育委員会

本賞は、民俗学・歴史学・考古学を通じ、地域を基盤にした学問の発展・発達と、地域を活かす立場から研究を進める人材の育成を図るとともに、次代を担う青少年の地域研究の奨励と、郷土愛を育むことを目的としています。平成14年度に創設され、今回で第21回となります。

募集要項

《一般の部》（大学生・大学院生を含む）

募集内容

日本を含む東アジア地域に限定したテーマを設定し、民俗学(民俗芸能を含む)・歴史学・考古学的手法により調査・研究をしてまとめた未発表の研究論文、特にフィールドワークなどによって発掘した新しい資料や、学際的な視点によってまとめられた未発表の論文を募集します。ただし、過去の大賞受賞者は応募することができません。

文字数・体裁

- ・20,000字以上、30,000字以内（400字詰原稿用紙換算50～75枚）。
- ・縦書、横書は任意で、1枚ごとに頁番号をつけてください。
- ・本文とは別に、表紙（論文題名と住所・電話番号・氏名・生年を明記）と、論文要旨（800字程度）をつけてください。
- ・パソコン等使用の場合は、A4判用紙に40字×30行一段組で印字してください。
* 図・表・写真は文字数に含めません。ただし、必要最低限にしてください。

締切日 令和4年9月26日（月）消印有効

《高校生の部》

募集内容

地域を限定して歴史・民俗学的なテーマを選び、個人で調べたことをまとめた作文・小論文、または共同で調査・研究をしてまとめた成果物を募集します。いずれも二重投稿はできません。

文字数・体裁

- ・個人作文・小論文（共同研究を含む）は4,000字以上、16,000字以内（400字詰原稿用紙換算40枚以内）。
- ・共同研究については、800字程度で研究の目的と成果をまとめた要旨をつけてください。
- ・縦書、横書は任意で、1枚ごとに頁番号をつけてください。
- ・本文とは別に、表紙（題名と住所・氏名・学校名・学年を明記）をつけてください。
- ・パソコン等使用の場合は、A4判用紙に40字×30行一段組で印字してください。
* 図・表・写真は文字数に含めません。ただし、必要最低限にしてください。

締切日 令和4年9月26日（月）消印有効

《 小・中学生の部 》

募 集 内 容

身近に存在する古くからあるものや昔の生活について、実際に訪れたり、大人から聞き取りを行うなどして、感じたことやわかったことなどをまとめた作文を募集します。（二重投稿はできません。）

文字数・体裁

- ・自筆の場合は、中学生は400字詰原稿用紙で3～7枚、小学生は400字詰原稿用紙で2～7枚とし、パソコン等使用の場合はA4判用紙に40字×30行一段組で印字してください。
- ・縦書、横書は任意とします。
- ・本文とは別に、表紙（題名・住所・氏名・学校名・学年を明記）をつけてください。

締 切 り

令和4年9月5日（月）消印有効

賞・その他

— 賞 —

一般の部 大賞または奨励賞 1編 大賞賞金 30万円または奨励賞賞金 20万円

※一般の部の受賞はいずれか一賞のみとなります。また、受賞該当者がいない場合もあります。

	最優秀賞(各1編)	優 秀 賞(各3編)	佳 作(各5編)
高校生の部	図書カード5万円分	図書カード2万円分	図書カード5千円分
小・中学生の部	図書カード2万円分	図書カード5千円分	図書カード2千円分

— 発 表 ・ 公 開 —

- ・入賞者には12月下旬頃に通知いたします。
- ・授賞式は令和5年3月を予定しています。
- ・受賞論文・作文と受賞者の氏名・学校名・学年などは、『第21回櫻井徳太郎賞受賞論文・作文集 歴史民俗研究』に収録するとともに、板橋区ホームページで公開いたします。
- ・小・中学生の部の最終選考に残った作文題名・氏名・学校名・学年を『第21回櫻井徳太郎賞受賞論文・作文集 歴史民俗研究』に掲載することもあります。
- ・各受賞論文・作文の著作権については著者に帰属しますが、出版権は主催者に帰属します。

審 査 委 員 (50音順)

久保田 昌希（駒澤大学名誉教授、歴史学）
酒井 清治（駒澤大学名誉教授、考古学）
真野 俊和（元筑波大学教授、民俗学）
茂木 栄（國學院大學名誉教授、民俗芸能）

応募・問い合わせ先

173-8501 東京都板橋区板橋2-66-1 板橋区教育委員会事務局生涯学習課文化財係
（板橋区立学校在学者は学校に提出してください）
TEL 03-3579-2636 / FAX 03-3579-2635（生涯学習課直通）
URL <https://www.city.itabashi.tokyo.jp/bunka/bunkazi/sakurai/1004925.html>



表に「櫻井徳太郎賞△△の部応募作在中」と朱書きしたうえ、「簡易書留」もしくは「レターパック」にて郵送するか、または持参してください。なお、応募作品は審査終了後返却します。